

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270201203		
法人名	医療法人社団 鳳雄会		
事業所名	グループホーム・ゆうゆう (コスモス)		
所在地	千葉県市花見川区犢橋町12番地3		
自己評価作成日	平成22年2月25日	評価結果市町村受理日	平成22年5月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo.pref.chiba.lg.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 社会福祉士ネットワーク・ヒューマンレインボー		
所在地	千葉県船橋市本町4-31-23		
訪問調査日	平成22年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事において、旬の食材、産地直送の米の使用や器、盛り付けの工夫により、楽しい食卓作りに取り組んでいる。浴室においても、広く設計し、快適な入浴を支援している。又、近隣で同じ法人系列の老人介護保険施設があり、必要に応じ、看護師、PT、OT、栄養士、Dr等との相談。連携ができる体制にし、入居者のニーズに合わせた柔軟な支援を行っていると共に、合同行事や日ごろの交流を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開放的で清潔感のある平屋造りの施設である。同じフロアが2ユニットに仕切られているが、それぞれのユニットの職員が互いに協力しあいながらケアを行っている。母体が目の前にある老健であり、非常時の避難場所になっている。家族会があり、運営に協力している。一方、介護方法や安全管理に関するマニュアルが整備されていないことが確認された。職員の経験や話し合いによって介護が行われているものの、今後、認識の共通性を確保するために、マニュアルの整備を急ぐ必要がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一同いつも目に付く場所に「基本理念」を掲げ月一回の職員会議でも再確認し合っている 入居者家族、ボランティアの方々が地域住民である事から、交流も多い又家族会も結成している。 ホームページも掲載している	ホームの理念を常に目に付く場所に掲示するほか、ホームページにも掲載し、内外に周知させている。研修の場でもある職員会議においても、理念の実践を図るべく、繰り返し確認を行っている。 職員の声からも理念の実践に向けて努力していることが感じとれる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々を招いて、バーベキュー大会、夏祭り、餅つき大会等、母体と合同で行っている	夏祭りや運動会・バザー・お茶会など毎月何らかの行事を行っており、地域のボランティアや子供たちが参加している。家族も多数参加し、利用者とともに楽しいひと時を過ごす。また、近隣住民が野菜を持って来てくれるなどの交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方、家族会の方と運営推進会(年1~2回)行い、認知症と言う障害についての理解、又支援の方法として、事例に基づき意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の理念に基づき、サービス内容の説明日々の利用者の方の生活状況を報告しながら、話し合い、意見があれば、積極的に取り入れるよう努力している。	今年度は1回開催だったが、来年度は2回にする予定。協議会の協力を得て、地域の方々に認知症やグループホームを理解してもらう計画を立てている。住民に都合のよい土日が地域包括支援センターの休みというのが悩ましいところ。	地域住民を対象に認知症への理解を進めようという発想を評価したい。全国で展開している認知症サポーター養成講座を主催するなど、実現に向けてほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市長村担当者の方と、自由に連絡し、又、その都度指示を仰ぐ時もある。千葉市のグループホーム協会を通じて市との連携を密に行っている。	グループホーム協会を通じて市の高齢施設課職員との協力関係が確立している。高齢者福祉の動向や最新情報についての質問が気軽にできる関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ手引き・又身体拘束の研修など参加し、職員会議にて、研修で学んできた事を発表している。今現在、身体拘束している利用はいない。	契約書に身体拘束をしないことを明記している。身体拘束の事例は全くなく、居室に外から鍵をかけることもない。日中は玄関の施錠もしていない。2ユニットあるが、ユニット間の往来もでき、開放的なケアに徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	徘徊者には、その度職員が声掛けや、レクリエーション・散歩等で気を紛らす対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	大まかには理解している。 現在必要性のある利用者はいない。今後学ぶ機会を積極的に持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	質問等には誠意を持って答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員とは自由に話し合えるよう心がけており、要望等には積極的に耳を傾けるようにしている。	日常の何気ない会話から利用者の意向を受止めている。家族会との交流時や面会時に家族の意見を訊いている。来所の少ない家族には時に来所を促すこともある。また、外部評価やアンケートの結果を運営に生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議の他に、意見箱を設けている。	月1回職員会議を開催し、そこで職員が自由に意見交換している。ここで出された職員のアイデアが運営に生かされることも多い。刻み食でもミキサー食でも原形に近い形に盛りつけることにしたのは、新任職員の声を反映したものである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	十分配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修を行うと共に、千葉県グループホーム協会に所属し、会で開かれる研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市のグループホーム協会に所属し、会合には出来る限り参加して、所属下の近隣ホームとは相互訪問もしている。他のグループホームと合同運動会も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	運営者、管理者、ケアマネージャーが様々な角度から係わり、多面的な見方でコミュニケーションを図るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの相談には、面談、電話共に受け入れられている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	色々な選択があり、事例を話し説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の能力や希望に応じて家事等の生活活動を共同で行っている。職員は入居者から礼儀作法や生活の知恵を学ぶと共に、感謝の言葉に癒しややりがいを得ており、共に支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等にて、家族からの協力を得ており、家族とも支えあう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との連携を図りながら、馴染みの方々との面会、外出を実現している。	元駅長だった利用者のもとに当時の仲間が遊びに来たり、家族とともに法事や墓参りに出かけたりしており、馴染みの関係は継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事作り、盛り付け、配膳、下膳、洗濯等を職員誘導の下、多くの利用者が参加している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も利用者、家族からの通信は受け入れられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族、職員の情報を密にし、本人本意の方向性を探る努力を常にしている。	日常娘の顔がわからない利用者でも時にはわかることがあるように、比較的頭脳が鮮明な時もあるので、そのような時に何気なく意向を確認している。昔の話をしている時に、希望を話すこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と家族双方から聞き取りと検証を日ごろから心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員個々が、利用者一人ひとりに対し、目配り、気配りを心がけると共に、利用者個々には、担当を置いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会、電話等の機会を積極的に活用し、相談報告をしている。介護計画に見直しが生じた場合は、事前に、本人、家族に相談し、了承を得た上で現状に即した新たな計画を作成している。	状態の変化があるときにはその都度、また原則6か月毎に現状を分析し問題解決を図っているが、その際、職員の居室担当制が役立っている。運営協力してくれる家族会があり、意見をもらうことができる。面会時に希望を訊いてもいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人健康チェック表と個人記録を活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の希望に応じて、買い物や外出等を実施し、柔軟に対応している。訪問理美容や馴染みの美容室への付き添いを実施し、身だしなみの支援も行っている。法人系列の老人保健施設が近隣にあり、必要に応じて看護師・理学療法士・言語聴覚士・栄養士・医師等と相談・連携が出来る体制が構築されており、入居者のニーズに合わせた柔軟な支援が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアは積極的に受け入れ、警察、消防には相談をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医との連携を図り、随時受診が出来る様にしてている。定期的(週1回)に訪問歯科診療を受けている。月2回の往診も受けている。	多くの利用者(家族)は施設の提携医を主治医とすることに同意しており、1名が希望により入所前のかかりつけ医を主治医としている。スタッフ同行の受診や往診、定期的な歯科診療等により適切な医療支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームには看護師がいない為、提携病院の看護師、医師との連携を密にすると同時に、母体施設(老健)の医師、看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師、看護師との話し合いと家族との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期まで看取って欲しいとの家族からの要望はあるが、提携医との相談の結果、入院対応をしている。家族、提携医、職員の連携を密にし、出来る限りの本人支援に取り組んでいる。	ターミナルケアへの不安を感じながらも、必要性を認識している。終末期を迎えた民謡好きな利用者も布団に横たわって参加し、共有スペースで民謡会を行ったところ、その利用者が立ち上がり踊りだして生を蘇えらせたという、奇跡のような事実があった。利用者への心のケアが成し得たことと思われる。	ターミナルケアへの取組みを考えているが、その実践に当たっては、医療・家族等との連携が求められる。老健が母体であることや家族会が機能していることを活用しながら、取組みを進めてほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習等の研修を受けさせている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所は目の前にある母体施設(老健)及び、ホーム敷地内駐車場となっており、避難訓練は定期的に行っている。	平屋建てで出入口も多く開放的。目の前の老健(災害時の避難場所)と合同訓練を行っており、避難方法に通じている。警察や消防との協力体制も出来ている。仕切りを隔ててもう1つのユニットがあり、夜勤時は両ユニット合わせて2人勤務体制となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対しての言動・プライバシーは職員間で注意し合っている。	「ホテルマンは客に横柄な態度をとらない。私たちも同じで、常に利用者を尊敬し、心を通わせなければならない」というホーム長の指導により、スタッフは利用者の人格を尊重したケアを心がけている。入浴・排泄にあたって、常に羞恥心に配慮したケアに徹している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人に合わせた対応を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを把握する努力と実施を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の理美容師の方に定期的に訪問していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に出来る限りの参加を促し、調理や配膳、下膳をしている。	メニューを前もって決めてしまわず、食材を見ながら、その都度柔軟に対応している。職員が利用者の好みを訊き、リクエストを2～3日の間にはテーブルに並べるようにしている。利用者も食器洗いなどに参加し、和気あいあいとしたひと時を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表と、献立表を活用して一人ひとりの状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄、歯磨き、うがい等、個人に応じた対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。	リハビリパンツは一部を除き着用している。尿意がなく自発的にトイレに行けない利用者等に対しては排尿チェックを徹底しており、殆ど失禁なくトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝体操を取り入れたり、水分摂取表を作り、水分摂取量の把握をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その時々状況に合わせて午前にも午後にも入浴出来る様にしている。	基本的には午後が入浴時間だが、往診やヘアカットなどの関係で午前中に入浴することもできる。2ユニットが交代で入浴するため週3回の範囲でだが、利用者の希望に応じられる。季節によって柚子や菖蒲を入れ、喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室では、それぞれ自由に休んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬の使用目的等がわかる処方ファイルを用意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リビングでは、音楽DVDや映画を流したり、折り紙をしたり、将棋をしたり、散歩をしたり等、日々様々な取り組みをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員での散歩や、戸外での食事会、個人の通院はしているが、その他の外出、外泊は家族に勧められている。	年間行事予定が豊富に組まれており、初詣や花見(梅・桜)、餅つき、町内の祭り、バーベキュー(年5回)など、戸外での活動も多い。また、スタッフと共に周辺の散歩も適宜行っている。他にも100円ショップへの買い物ツアーや回転寿司などは職員と共に出かけ、墓参りは家族と共に出かける。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度なら、個人管理をしている利用者もいる。100円均一で買い物ツアーも職員同伴で施行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を所持している利用者がある。また、ホーム内の電話では自由に連絡が取れるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの共有スペースはゆったりとした空間を確保しており、廊下の壁等には、季節感を取り入れた展示物を掲示している。	玄関・廊下が広々としており、全体的にゆったりした雰囲気を醸し出している。2つある浴室のうち、1つはリフト浴が可能。ウッドデッキスペースがあり、限られた本数だが喫煙もできる。庭も利用者の大切な場であり、利用者・家族会・職員で草取りをした後バーベキューを行うなど、活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキ、廊下、リビングにはそれぞれソファや椅子を用意し、自由にしようできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への私物の持込みには原則、制約は設けていない。畳とフローリングの2種類の居室を用意している。	フローリングと畳の2種類の部屋があり、室内には使い慣れた箆笥や仏壇、連れ合いの写真、孫の作品など馴染みのものが置かれ、きれいに整頓されている。バリアフリーも行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全てバリアフリーにし、ドアは引き戸になっている。		